

資源評価調査委託事業 Ⅱ 漁場一斉調査

漁業資源課 漁崎 盛也

1 目的

土佐湾周辺海域に出現する流れ藻の来遊状況、流れ藻に付着するモジャコの出現状況、サイズ組成等を把握し、ブリ資源の動向把握及びモジャコ漁業の効率的な操業に資する。

曳網を用いた採集調査は平成 21 年から毎年継続しており、本報告では平成 30 年の実績を報告する。

2 方法

(1) 調査期間

前年までと同様に毎月 of 定線調査の際に実施した（定線の位置は図 1 参照、5 月は土佐湾定線及び室戸東定線のみ）。各月の調査期間は以下のとおりであった。なお、3 月の調査は前年度（平成 29 年度）事業に含まれる。

3 月調査・・・平成 30 年 3 月 9～18 日

4 月調査・・・平成 30 年 4 月 4～17 日

5 月調査・・・平成 30 年 5 月 8～13 日

(2) 調査船

漁業指導調査船「土佐海洋丸」80 トン

(3) 採集漁具

曳網（目合：6 本 30 節）

(4) 調査手順

- ・目視により流れ藻を探索し、視認点の緯度経度、水温、流れ藻数を記録。
- ・1 日当たり 5 個程度を目安に流れ藻を採集し、流れ藻重量、モジャコ付着尾数を記録。
- ・帰港後、モジャコの尾叉長を測定、流れ藻の種を同定。

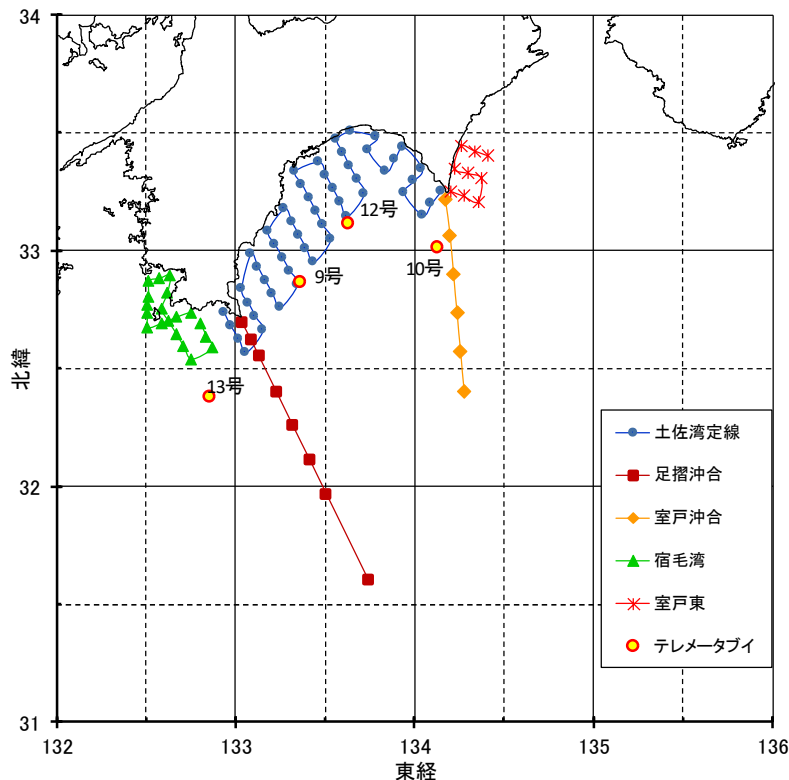


図 1 定線図

3 結果

(1) 流れ藻数

月別の流れ藻視認点数は表1のとおりであった。

3月は前年及び平年（平成19年～平成28年の平均値）を上回り、沿岸・沖合を問わず幅広い地点で流れ藻が視認された。

一方、4、5月は前年及び平年を下回った。特に5月は平年の2割程度しか視認されなかった。主な視認海域は、4月が宿毛湾から土佐湾西部、5月が芸東海域であった。

表1 月別の流れ藻視認点数

	H30	前年	平年
3月	86	69	58
4月	29	119	55
5月	8	48	42

(2) モジャコ付着尾数

月別の流れ藻1個当たりのモジャコ平均付着尾数は表2のとおりであった。

3月は前年を上回り、平年を下回った。4、5月は前年及び平年を上回った。特に4月の付着尾数は、採集漁具を変更した平成21年以降で最も多くなった。流れ藻の来遊が非常に少なかったことから、モジャコの流れ藻への付着が集中したためと考えられる。

表2 月別のモジャコ平均付着尾数

	H30	前年	平年
3月	7.4尾	1尾	21尾
4月	127.8尾	5尾	17尾
5月	33.8尾	3尾	30尾

(3) モジャコ尾又長組成

3月：2.0～10.0cm以上まで幅広く、5.0～8.0cmのサイズが多かった。

4月：1.0～10.0cm以上まで幅広く、4.0～6.0cmのサイズが多かった。

5月：3.0～4.0cmのサイズが多かった。

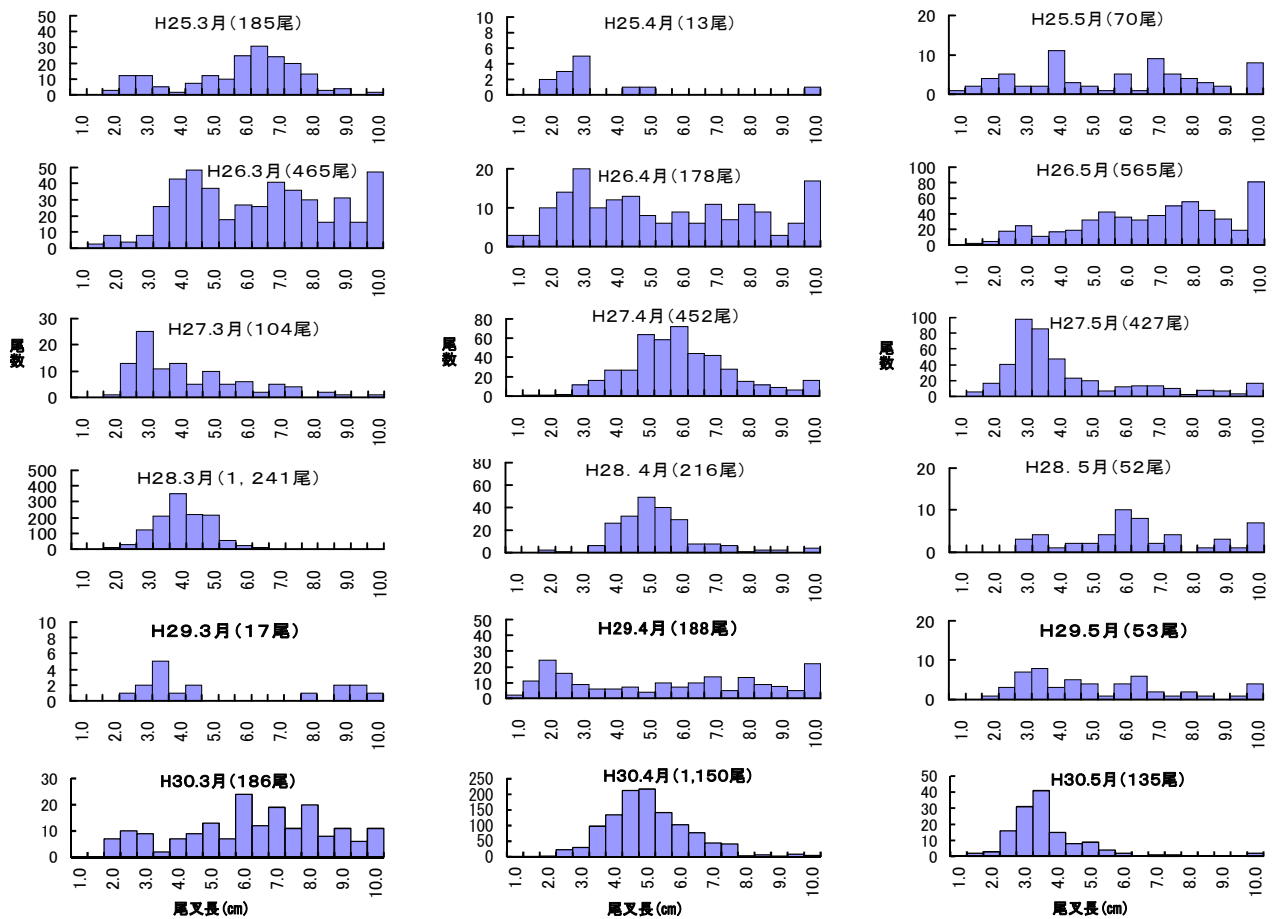


図 2 採捕したモジャコの月別尾叉長組成

(4) 流れ藻の構成種

3月：すべてアカモクであった。

4月：アカモク、ヨレモクモドキ及びヤツマタモクであった。

5月：ヒジキ、フクロノリ、ウミトラノオ及びヨレモクモドキであった。